

## Network meta-analysis of individual and aggregate level data

コクラン共同計画に代表されるように、臨床試験、特にランダム化比較試験の中から質の良いものを世界中から網羅的に収集しシステムティックレビューとメタアナリシスを行いその結果を評価することが行われている。その中でも、治療法が3種類以上存在する場合に、すべての種類の治療法を含めたネットワーク全体で治療効果を推定する方法がネットワークメタアナリシスである。各臨床試験の結果を統合する際に、論文ベースで要約統計量: aggregate-level data (AgD) を参照して各治療法の推定値を算出されていたが、その際に研究間の異質性(heterogeneity)や、不一致性(inconsistency)を考慮しなければバイアスのある結果につながってしまう。メタアナリシスにおいてはメタ回帰を用いることで異質性を考慮した解析が行われるが、対象の臨床試験において個人レベルでのデータ: individual patient-level data (IPD)が手に入る場合には各試験内の関連と試験間の関連を別々に考慮でき、よりバイアスの少ない結果が得られることが示されている。しかしながら、対象となったすべての研究において IPD が手に入るわけではなく、そのような場合に IPD のみを用いた解析を行うべきではない。その際にメタ回帰によって IPD と AgD の両方を用いた解析が行われている。

そこで本抄読会では、この方法を応用した IPD と AgD を用いたネットワークメタアナリシスの方法について、紹介する。

### 主要文献

Jansen JP. Network meta-analysis of individual and aggregate level data. Res Synth Methods 2012 Jun;3(2):177-190.